PAPER #05

魅せます！とちぎブランド・ぶらり スタッフ日記

栃木県 とちテレ

TOCHI BURA STAFF DIARY

わたらせ渓谷鐵道の旅
～足尾銅山記念館～

GUEST 菊池柚花

わたらせ渓谷鐵道は、群馬県桐生市の桐生駅から栃木県日光市足尾町の間藤駅までを結ぶ、全長44.1キロメートルのローカル鉄道！
渡良瀬川沿いの渓谷を走るその路線は、四季折々の自然を楽しめる観光鉄道として人気があり、「わ鐵」という愛称で親しまれています。今回は、菊池柚花さんがわ鐵に乗ってブラりします！

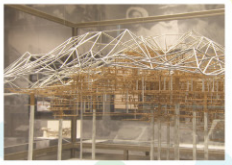
LET'S GO!

BURARI 01
旅の始まりは…

旅の始まりとなる神戸（ごうど）駅では、わたらせ渓谷鐵道株式会社の布施社長と、マスコットキャラクター「わ鐵のわっしー」がお出迎え。
わ鐵は、普通列車の他、観光シーズンに特別運行する「トロッコわっしー号」「トロッコわたらせ渓谷号」の3種類の列車があります。
今回乗車するのはトロッコわたらせ渓谷号ということで、初めての体験に菊池さんも期待が膨らんでいるようです。
わっしーとは神戸駅でお別れ。名残惜しそうな二人。
スタッフもちょっぴり寂しくなりました。

BURARI 02

オープンしたばかりの足尾銅山記念館



トロッコわたらせ渓谷号の終点である足尾駅から徒歩3分の場所には、今年(2025年)の夏にオープンした足尾銅山記念館があります。
最盛期の足尾銅山において中心的役割を担っていた「足尾鉱業所」を、残っていた写真や当時の図面、資料に基づいて完全復元したんだそう。
記念館では、明治時代の日本を代表する実業家であり足尾銅山を運営していた古河財閥の創始者でもある古河市兵衛翁の信念や功績、足尾銅山の開発や発展、鉱害とその克服などを、時代の変遷とともにさまざまな展示で知ることができます。
同館の久能(くのう)館長の説明を受け、菊池さんも真剣なまなざしで見入っていました。

BURARI 03

足尾銅山記念館 久能館長のお薦め展示

見ごたえ抜群の展示の中でも久能館長が個人的にお薦めと教えてくれたのが足尾町の暮らしを紹介する展示。今にも動き出しそうな可愛いミニチュアたち。
その中でもひときわ目を引くのは、日本最古の生協の一つとも言われている『足尾銅山生活協同組合　三養会』の展示で、足尾銅山の鉱夫やその家族の当時の暮らしぶりを知ることができます。実は、久能館長は2016年に解散したこの組合の最後の理事長だったそうです。そう語る顔は少し寂しそうにも見えました。

BURARI 04

記念館のロゴには秘密が…

足尾銅山記念館
ASHIO COPPER MINE MUSEUM

足尾銅山坑道の全長1,234キロメートルの1234という文字(漢数字)と、現在の古河機械金属株式会社の商標である「ヤマイチマーク」のモチーフが隠されているんだとか。答えはぜひ記念館を訪れて、久能館長へ聞いてみてください。

BURARI 05

トロッコ列車に足尾銅山記念館!

トロッコ列車できれいな景色を眺めて、目的地では足尾銅山の歴史を学んだ今回の旅。
遊びに学びにと充実したロケになりました。皆さんもぜひ「わ鐵」の旅をしてみてはいかがでしょうか?

お問い合わせ

栃木県 総合政策部 広報課

〒320-8501 宇都宮市塙田 1-1-20 県庁舎本館 3 階
TEL.028-623-2190　FAX.028-623-2160　kouhou@pref.tochigi.lg.jp